

斐川町立図書館視察報告書

1. 日 時:平成22年1月22日(金) 午後2時～
2. 視察先:斐川町立図書館
3. 視察者:マユーあき、岩田英作、尾崎智子、内田絢子(報告者)
4. 対 応:副主任(司書) 奥野吉宏様
5. 質問内容及び回答

絵本の選定・購入について

・質問内容

- ①絵本の選定基準
- ②絵本購入の際、複本は何冊程度購入しているのか
- ③海外の絵本(洋書)の選定基準
- ④海外の絵本(洋書)は、何カ国語くらいあるのか

・回答(頭の数字は質問内容に連動)

- ①開館当初は現物を見て購入していたが、現在は TRC(株式会社図書流通センター)が毎週出しているカタログを見て購入している。カタログには、前の週に出版された本のあらすじ等も載っているため、選定の参考にしている。カタログは年間3万円程度。
- ②現在は1冊のみ購入で、複本はしていない。開館当初は、定番のものは3・4冊、利用の多いもの(『ぐりとぐら』等)は10冊程度購入していた。また、地元の作家である長谷川摂子さんの絵本は6・7冊ずつ用意していた。
- ③今は、新しく購入はしていない。開館の際に、東京などの書店で現物を見て見計らいをした。
- ④英語が中心。その他もいくつかあるが、開架しているものはほとんど英語。

絵本の配架について

・質問内容

- ①絵本の開架冊数
- ②絵本の配架基準
- ③平置き絵本は定期的に入れ替えをしているのか
- ④『こどものとも』などは、最新号が出た後、古いものはどうしているのか

・回答(頭の数字は質問内容に連動)

- ①1万冊を切るくらい
- ②絵を描いた人順。その中で、日本の絵本と海外の絵本を分ける。また、赤ちゃん向けの絵本や、大きさの小さい絵本は別置。
- ③特に期間を決めて入れ替えをすることはない。空いたところに、その都度絵本を出していくようにしている。特に土・日曜日は利用が多く、平置き絵本が少なくなりがちなので、平置き棚に出していない絵本を次々出していく。季節もの(クリスマス等)や定番のもの、人気のあるものはできるだけ出す。
- ④最新号が置いてある棚の、下にある棚に並べている。入りきらないものは、公開書庫(利用者も立ち入り可能)に入れている。

閉架・除架について

・質問内容

- ①閉架用の棚は必要か
- ②除架は行っているのか

・回答(頭の数字は質問内容に連動)

- ①平置き棚は差し込み棚より容量が少ないので、すぐいっぱいになってしまうこともある。そのため、閉架用の棚があった方がよい。斐川町立図書館は公開書庫があるので、できるだけ閉架にはせず、公開書庫(一般の利用者も立ち入り可)に入れるようにしている。
- ②棚に入らないものは、公開書庫や事務局内の閉架用の棚に入れており、除架は今のところほとんどしていない。雑誌は、期限の切れたもののみ除架している(『こどものとも』は読み聞かせボランティアの方などから問い合わせがあるので、全部保管している)。クリスマスなど季節ものの複本は、季節が過ぎたら閉架にしている。定番と言われている絵本でも、普段はあまり利用されていない本の複本も閉架。学校から要請があれば、閉架用の棚においている複本の中から貸出をしている。

利用・貸出状況などについて

・質問内容

- ①児童書コーナーは平日より土日祝日の利用が多いのか
- ②貸出冊数の上限を設けていないが、本がなくなることはないのか
- ③(②の回答を受けて)ICタグの価格
- ④大型絵本もよく利用されているのか

・回答(頭の数字は質問内容に連動)

- ①圧倒的に土日祝日の利用が多い。特に絵本コーナーを利用する子どもたちは、子どもだけではなかなか図書館に来ることができない(年齢的に)ため、保護者が休みである土日祝日に来ることが多い。
- ②ICタグを読み取るゲートを設置しているので、ほとんどない。借りられたまま、返却がないものは期限から2週間くらい待つて通知する(電話や文書で)。それでも返却されない場合は訪問することも。
- ③旧式のもの1個80円。現在一般的なものはバーコード込みで80円程度。
- ④クリスマス会などイベントがある季節は利用が多い。大型絵本と合わせて他の絵本(イベント利用ではなく、自宅で読むものとしても)借りていく人が多い。

読み聞かせ等のイベント、展示について

・質問

- ①「おはなしのへや」(読み聞かせ等のためのスペース)は、どのくらいの頻度で使われているのか
- ②大人向けに絵本のブックトークなどは行っているのか
- ③展示はどのくらいの頻度で行っているのか

- ④展示のテーマなどは、1年分まとめてあらかじめ決めておくなど、早めに準備をしているのか
- ・回答(頭の数字は質問内容に連動)
- ①絵本の読み聞かせは週2回。水曜は2・3才を対象に、土曜日は4～8才を対象にしている。土曜日の読み聞かせは職員だけではなく、ボランティアの方も参加している。また、月に1回ボランティアの方によるストーリーテリングも行っている。
- ②大人向けのものには行っていない。ブックトーク研究会(講習会)は行っているが、図書館ではなく、学校等に行って開催している(ボランティアの方が中心)。
- ③基本的には1か月に1回。その他、季節のものなどいくつかやることも。
- ④テーマは、その時々で担当2人で話し合っ決めて決める。展示に使う本の選定はある程度時間が必要だが、何カ月も前から用意するということはない。

その他

・質問

- ①斐川町内の小・中学校との連携はどのように取っているのか
- ②返却された本が、破れていたり汚れていたりしたときはどうしているのか
- ③館内で流れているBGMは常に流しているのか

・回答(頭の数字は質問内容に連動)

- ①調べ学習など授業で使う本・資料は各学校の学校司書と打ち合わせをして、どの学校にも十分な数の本や資料が貸し出せるように打ち合わせをする。学校の授業中にする調べ学習は学校司書が担当し、生徒が授業の時間に図書館に来て調べ学習をすることは基本的にはない。
- ②基本的には図書館で修理する。しかし、ページの端が無くなっているなど、修理ができない場合は弁償。破れた本はそのまま持ってきてもらった方が良い。セロハンテープはすぐ劣化するので使わない。
- ③BGMはリラックス効果を考えて常に流している。県内の図書館ではまだ少ないが、県外の(特に80年代以降に建てられた)図書館ではBGMを流しているところが多い。読み聞かせの間は、「おはなしのへや」の扉をしめ切れば気にならないので、ボリュームを少し落とす程度にしている。BGMで使うのはピアノ曲が多い。